

学校だより

平成27年度 第2号

下野市立南河内中学校
発行者 日下田 英彦
H27. 4. 10

1 始業式 生徒代表の話

入学式に先立ち行われた始業式では、2年生の角田駿哉君、3年生の小野田悠人君が生徒代表作文を発表しました。それぞれにすばらしい内容でしたが、紙面の関係で要約を掲載します。角田君は、2年生になるにあたって3つの具体的な目標をあげてくれました。「学習」、「生活」「部活動」についてです。ただ頑張ろうというのではなく、具体的な目標を立てることで自分が何をすべきか考えることができます。また、振り返りを行いやすくなります。小野田君は「3年生は後輩の手本にならなければなりません。」と自分の視点の目標でなく、他者からの視点で目標を考えました。そしてまとめには「南河内中の顔になる。」と結んでくれました。保護者のみなさんもぜひ、お子さんの目標を聞いてあげていただけませんか。きっと成長した点を感じることができると思います。

2 入学式より

4月8日(水)朝からの雪に驚かせられました。新入生はとても立派な態度で入学式に参加できました。約1時間の式でしたが、姿勢も良くしつかりした態度でした。ここでは新入生代表誓いの言葉と、在校生代表歓迎の言葉(抜粋)を掲載します。



やわらかな風が吹き、太陽の光が満ちあふれ、生命が生き生きと活動を始める春、私たち新入生66名は南河内中学校の入学式を迎え、本校の生徒への仲間入りをする事になりました。緊張と不安のなかにもこれから始まる学校生活への期待で胸がいっぱいです。今までとは違う環境の中で、私たちは幅広い知識や技術を身につけ、新しいことに挑戦していくわけですが、その中には苦しくてつらいことが待ち受けているかもしれません。しかし私たちには大きな夢があります。それを達成するためなら、たとえ今がどんなにつらくとも将来の自分に近づくためがんばることができます。それに私たちにはそれぞれに目的を持つ仲間や私たちを指導して下さる先生方がいます。そんな心強い味方と共に考えたり、悩んだり喜びを分かち合えることは本当にすばらしいことだと思います。もし私たちが悩んでいるときには、先生方、先輩方どうか力を貸してください。私たち66人全員が楽しく生活を送れるような良い人間関係を作っていきたいと思います。

最期になりましたが、私たちはどんなことにも一生懸命取り組み、辛いことがあっても決して逃げずに思いやりをもって行動することを誓います。校長先生をはじめ、諸先生方、3年生、2年生の先輩方、今日は私たちのためにこのようなすばらしい式をありがとうございました。

平成27年4月8日

新入生代表



歓迎の言葉（抜粋）

中学校では、小学校に比べ勉強が難しくなり、教科ごとに担当してくださる先生が変わります。放課後になると部活動もあります。その分、学校にいる時間が長くなりますが、その時間は自分や仲間の新たな部分を見つけたり、自分自身を成長させる大切な時間となります。

毎日の学習では、確かに小学校よりも内容が難しく量も多くなりますが、小学校よりも充実した内容で、学習の楽しさを実感できると思います。そして、定期的に行われる定期テストでは、自分の実力を確かめると共に、友と競い合うこともできます。勉強することが面倒と思っても、そこでやめずに継続的に取り組むことができれば、成果が表れてきます。

中学校には部活動があります。部活動に入ることにより、技術面、礼儀面などたくさんのことを教わることができ、練習を重ね、技術向上に努めています。大会などでは自分の努力次第で成果が表れます。1年も経てば、精神面など心身共に成長したことが身をもってわかるはずですよ。どの部活においても、先輩は優しく新入生の皆さんを迎えますので、是非、部活動に入ってみてください。

他にも、この南河内中学校では、「花と本と詩（歌）のある学校」として、花は、美化委員会を中心に、全校生徒で学校内に花を増やす取り組みをしています。本は、毎朝、夕顔タイムに読書の時間を設け、読書の楽しさすばらしさを感じ、見聞を広めるという目的で行われております。詩は、合唱などの歌はもちろんのこと、俳句にも積極的に取り組んでいます。

（中略）

経験こそ人を成長させる最大のチャンスだと、私は今までの中学校生活を通してはっきりと言えます。新入生の皆さんも是非、いろいろなことにチャレンジしてってください。

1年後、2年後にはきっと、一回りも二回りも成長した自分の姿が見えてくるはずですよ。中学の3年間、どうぞ全力で頑張ってください。私たちはいつでも応援しています。

在校生代表

南河内中の様子や学習や部活動について、経験をもとにして分かりやすく話してくれました。保護者の皆様にも本校の特色がよくわかると思います。

最後になりますが、私の式辞では、全国バスケットボール大会で何度も優勝を果たした能代工業高校の監督であった加藤三彦さんが講演でおっしゃった、「中学生はプロの中学生になってほしい」ということを話しました。「プロの中学生」とは中学生として行うことを、当たり前に行うことができるということです。中学生として当たり前のことができこそ、おとなになって、職業についてもその道のプロになれるということです。新入生のみなさんは本校の教育目標である「自ら学ぼう。豊かな心を育てよう。たくましく頑張り抜こう。」の三つの目標を当たり前前に達成できるよう、それぞれの具体的な目標に置き換えてもらいたいです。

桜の花と雪が舞う入学式は大人になってもきっと忘れることはないでしょう。参列いただいた来賓の皆様、多くの保護者の皆様に改めてお礼申し上げます。

